

スポーツ熊谷

第190号

発行所 公益財団法人
熊谷市体育協会
発行者 富岡 清
TEL 048-525-6463
メール kumagayatallyo@bird.ocn.ne.jp
URL <http://kumagayatallyosakurane.jp/>
編集 広報専門委員会



第68回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会が9月18日(金)から20日(日)の3日間、熊谷ホーツ文化公園陸上競技場で開催された。

男子23種目、女子21種目、延べ1、242人の選手が出場した本大会では、男子200㍍で2位となった熊谷出身の北川翔選手や男子1万㍍で日本人最高位となつた東京オリンピック男子マラソン日本代表に内定している服部勇馬選手を始め、陸上界のトップアスリートによる熱戦が繰り広げられた。

なお、本大会は新型コロナウイルス感染症予防の観点から、無観客での開催となり、大会の模様は日本実業団陸上競技連合公式チャンネルでライブ配信された。



埼玉県出身の選手の結果

第68回 全日本実業団陸上選手権大会



市総体バスケットボール大会 男子はアトムズ、女子はレディースが優勝



③ AEGIS ② FORCE
① LYNXES ④ ゾウ
② ロケッタ ⑤ ハリ

体育大会が開
加したチーム
衆を行ひなが
も、久しぶり
顔を合わせ
メンバーと
流しながら、
スケットボ
ルを楽しんだ
結果は次の

ラグビースクール
グラウンドに子供の笑顔が戻ってきた

コロナに負けるな！
スポ少中学生ソフトテニス大会

市總体
通信弓道大会



Aプロック①Lut n②さつき
Bブロック①P EACE②New

バレーボール大会 3密回避の総合交流大会

佐々木記



埼玉・熊谷開催の記録から

ラグビーワールドカップ2019日本大会

「ロナ禪の中、昨年のRWCの感動を思い起させる1冊を手にしました。日本全国が歓声に沸き、熱く揺れ、全世界に衝撃が走ったRWC2019日本大会」

日本全国が歓声に沸き、熱く揺れ、全世界に衝撃が走ったRWC2019日本大会の大成功を収めたが、開催に至る道のりは厳しいものがあった。

平成21年7月当初、2019年の日本開催を決定した時の11の候補地に熊谷の名はなかった。それからラグビー「タウ」熊谷としての懸念な招致活動が始まりました。

熊谷市内を中心に、試合会場などでも署名活動を行い、開催機運を盛り上げたが、最終的時点で立候補は15都市。

（略）

また組織委等が熊谷ラグビー場を視察した際の評価を受け、施設の大規模改修や観客輸送の改善策を説明し、開催地としての決定を得た。

平成27年3月、念願の12開催都市に熊谷が決定！

RWC2019日本開催の3試合はほぼ満席の7万人。10日間のファンゾーンにおいても7万人の入場者数があり大盛況を収めた。課題であった観客輸送もスマートな送迎を実現し、児童生徒によるキックオフ前の国歌斉唱やボランティアの活躍等、熊谷のおもてなしが世界に発信され賞賛を得た。



アルゼンチン対アメリカ

ラグビーワールドカップ(熊谷ラグビー場)の歩み

- 2009.7 國際ラグビー評議会が2019年に日本開催を決定。
- 11の会場候補地に熊谷はなかった。
- 2011.6 市と県ラグビー協会を中心、「ラグビーワールドカップ2019埼玉県招致委員会」を設立し、署名活動を開始する。
- 2013.10 組織委が「開催都市ガイドライン」発表。
 - ①良質な60m以上の大型スクリーン
 - ②良質な音響機器
 - ③最低2台のスコアボード
 - ④十分な照度の照明
 - ⑤収容人数はカテゴリー別に1.5万人～、2万人～、4万人～
- 2014.6 県も加わり「埼玉県ラグビーワールドカップ2019招致委員会」を設立。
- 2014.10 立候補は最終的に15都市。
- 2015.1 熊谷ラグビー場を組織委とRWCJが視察。(観客数、観客席、観客輸送等の施設に課題…)
- 2015.2 熊谷ラグビー場の大規模改修や輸送交通の改善策を説明。
- 2015.3 RWCJがダブリン(アイルランド)で熊谷市を含む12開催都市を決定し、発表。
- 2015.8 ラグビーワールドカップ2019熊谷市準備委員会を設立
- 2017.11 熊谷ラグビー場で3試合開催を決定。
- 2018夏 新熊谷ラグビー場完成 延床面積28,000m²
 - ①新スタンド17,000m²(既存スタンド11,000m²)
 - ②座席数24,000席(個席シート) ③メイン照明灯2基LED
 - ④大型映像装置1基目175m²、2基目60m²
 - ⑤フィールドを1mかさ上げし、ティフラント芝の導入
- 2018.10 こけら落とし パナソニック対キャノン
- 2019.3 パナソニックのチーム移転に向け埼玉県・熊谷市・パナソニック相互協力の協定書
- 2019.5 ラグビータウン熊谷のスローガン「スクマム！クマガヤ」発表
- 2019.6 仮設スタンド増設(1,600席)
 - 計25,600席
 - 9/6 日本代表壮行試合(対南アフリカ) 観客数22,258人
 - 9/24 ロシア9-34サモア 観客数22,564人 (中学生4,250人)
- 9/29 ジョージア33-7ウルグアイ 観客数24,895人 (小学生4,785人)
- 10/9 アルゼンチン47-17アメリカ 観客数24,377人 (小学生4,928人)
- 9/20 ファンゾーンin埼玉・熊谷 71,791人の入場者
 - ①パブリックビューイング ②熊谷ミュージアム
- 10/9 ③ケータリングエリア パブリックビューイングで22試合が放映され、ステージではラグビートークショーや盛りだくさんのイベントが行われた。
- 10/13 プール戦PV(熊谷ラグビー場) ウェールズ35-13ウルグアイ 日本28-21スコットランド
- 10/20 準々決勝PV(熊谷荒川緑地) ウェールズ20-19フランス 日本3-26南アフリカ
- 11/2 決勝PV(ニットモール屋外駐車場) イングランド12-32南アフリカ

1300人の大会ボランティアが活躍

平成30年2月のオリエンテーションを経て、6月のリターニング、スキルアップトレーニング、スキルアップ等の研修を行なった。

9月20日～10月9日までの熊谷会場の12日間、ラグビーフィールドファンゾーン、スポーツ文化公園内、熊谷ラグビー場内で案内運営、おもな等のサポートを行なった。

9月20日～10月9日までの熊谷会場の12日間、ラグビーフィールドファンゾーン、スポーツ文化公園内、熊谷ラグビー場内で案内運営、おもな等のサポートを行なった。

（略）

